

# 仏教音楽 人物伝

- 5 -

福本 康之

## 小松 耕輔 (1884~ 1966)

Komatu Kousuke

作曲家。音楽雑誌の創刊、合唱コンクール開催などに奔走

### 仏教音楽協会をリードし普及に尽力

昭和の初めごろ、仏教讃歌の新作発表とその普及に取り組んだ団体がありました。名前を「仏教音楽協会」といい、今日演奏されている仏教讃歌には、《衆念》や《四弘誓願》など、同協会から発表されたものも少なくありません。同協会は、発足当初より、山田耕柝や北原白秋など、当時の日本を代表する多くの作曲家や詩人の協力を得て活動していました。それゆえわず

か十数年という短い期間ながら、質の高い、それでいて親しみやすい作品が発表されました。その数は、170曲を超え、何人もの著名な詩人や作曲家が作品を提供しています。そのなかの一人に、藤井清水(6月20日号)や山田耕柝と同じく、20点以上もの作品を提供した小松耕輔という作曲家がいました。同協会発表による小松の作

品としては、「♪のーんののさま ほとけさま」で知られる仏教讃歌《仏さま》などが、今日まで保育の現場などで歌われています。作曲の才能もさることながら、その「行動力」もまた注目に値するものがあります。特に団体を組織し、その活動を推進する小松の力は、当時の著名な音楽家のなかでも抜きん出たものがあり、山田耕柝と一、二を争うほどでした。

作曲家としての活動はもちろんのこと、音楽雑誌の創刊やオペラ研究団体、著作権保護団体の設立、合唱コンクールの創設など、音楽に関わる当時の団体で、小松の名前を見かけることは珍しいことではなかったようです。しかも小松の場合は、どの団体においても単に名前が「ある」というだけではなく、実質的な牽引者として活躍していました。仏教音楽協会においても、作曲だけでなく、評議員兼研究員として新作発表の演奏会、機関誌への寄稿など、ときには音楽家の2人の弟(平五郎と清)をも巻き込んで仏教讃歌の啓発活動にも八面六臂の活躍を見せました。仏教音楽協会は、残念ながら戦時体制の下、解散せざるを得ませんでした。その短い間に遺された作品が今日でも演奏されている背景には、そうした小松の尽力があったことを忘れてはならないでしょう。



豪放な性格で人望を集めたという小松耕輔。フランス留学も経験した

(本願寺派総合研究所  
仏教音楽・儀礼研究室  
長)